

2020年5月13日

本資料は、サノフィ(フランス・パリ)が2020年4月24日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・要約し、5月13日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

## サノフィ、2020年度第1四半期にCOVID-19対応の最前線へ

### COVID-19の世界的な健康危機への迅速かつ果敢な対応

- 粘り強さを発揮し、世界的な生産ネットワークを含む完全な事業継続を維持
- COVID-19 ワクチンの開発を目的とした BARDA(米保健福祉省 生物医学先端研究開発局)、Translate Bio 社、GSK 社との新たな提携を発表
- 重篤な COVID-19 で入院した患者でケブザラ®を評価する世界的な臨床プログラムが進行中
- COVID-19 の治療薬としてヒドロキシクロロキンを評価する2件の試験を開始。1億回投与分の寄付を約束
- アジアで生産される原薬への依存を緩和するため、欧州に大規模な原薬生産企業を設立する予定

### 2020年度第1四半期の売上高増加は、デュピクセント®が牽引

- 第1四半期の売上高増加の約半分は、各チャネルが COVID-19 による混乱に備え在庫を増やしたことによって生じた。デュピクセント®の成長は COVID-19 の影響を受けず
- 純売上高は、調整前 6.9%増(CER ベースで 6.6%増<sup>(1)</sup>)の 89億7,300万ユーロ、デュピクセント®の売上高は 129.8%増の 7億7,600万ユーロ
- スペシャルティケアの売上高はデュピクセント®と Aubagio®と希少疾患の2桁成長に牽引され、31.3%増
- ワクチンの売上高は、比較となる2019年第1四半期の成長率が高かったこととトラベルカテゴリーの減少を反映し、3.7%増にとどまる
- ジェネラルメディシンの売上高は、糖尿病(1.2%減)などの長期治療の需要により、やや減少(3.8%減)
- CHCの売上高は、「その他の国」地域での業績に牽引されるとともに、COVID-19に関連する追加需要に支えられ、4.2%増加
- 中国の売上高(14.4%減)は、VBPプログラムの影響を受けたが、プラビックス®と CoAprovel®の出荷数が大幅に増加したことで部分的に相殺

### 2020年度第1四半期の1株当たり事業純利益<sup>(2)</sup>の増加は、基礎的な業績とCOVID-19の影響を反映

- 2020年度第1四半期の事業純利益は、15.9%増(CER ベースで 16.1%増)の 20億4,200万ユーロ
- 2020年度第1四半期の1株当たり事業純利益<sup>(2)</sup>は、CER ベースで 15.6%増の 1.63ユーロ。このうち約半分は COVID-19 の影響による増加
- IFRS 1株当たり純利益は、48.4%増の 1.35ユーロ

### 研究開発の進展と薬事面のマイルストーン

- 多発性硬化症における BTK 阻害剤('168)の第II相試験の詳細な結果がオンライン科学フォーラムで報告される
- 6~11歳の重症アトピー性皮膚炎の小児患者においてデュピクセント®を評価する第III相試験のポジティブな結果が RAD オンライン会議で発表される
- Sarclisa®が再発性難治性多発性骨髄腫の適応症に関して米国で承認され、CHMPからも肯定的な見解を受ける

### 2020年度通年の1株当たり事業純利益<sup>(2)</sup>の見通しを確認

- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2020年度通年の1株当たり事業純利益<sup>(2)</sup>は、CER ベースで約5%増<sup>(3)</sup>と引き続き予測。第1四半期の COVID-19 に関連する売上高と1株当たり事業純利益へのポジティブな影響は、第2四半期におおむね相殺される見通し。2020年4月の平均レートを適用すると、2020年度通年の1株当たり事業純利益への為替レート変動の影響は、-1%~-2%と予測



### サノフィ最高経営責任者 (CEO) のポール・ハドソンのコメント:

「サノフィの社員が COVID-19 パンデミックの深刻な課題に対処していることを誇りに思います。私たちは会社の新戦略を受け入れて実行に移しつつ、引き続き患者さんを最優先しています。このことは、デュピクセント®の大幅な成長の持続、ワクチン事業の強化、効率とキャッシュフローの改善と共に、ワクチンおよび治療薬の開発の加速や COVID-19 に対処する多方面の取り組みに現れています。研究開発においては、臨床試験プログラムを管理し、医療のあり方を一変させる可能性のある医薬品候補の開発を進展させるための対策を講じました。現時点ではパンデミックの期間は不明ですが、サノフィは、今般の問題を乗り越え、患者さんへの約束を果たすのに適した位置に立っていると考えています。」

	2020 年度 第 1 四半期	前年同期比	前年同期比 (CER)
IFRS 純売上高 (為替調整前)	€8,973m	+6.9%	+6.6%
IFRS 純利益 (為替調整前)	€1,683m	+48.0%	-
IFRS 1 株当たり純利益 (為替調整前)	€1.35	+48.4%	-
フリーキャッシュフロー <sup>(4)</sup>	€1,558m	+90.0%	-
事業営業利益	€2,659m	+15.8%	+15.9%
事業純利益 <sup>(2)</sup>	€2,042m	+15.9%	+16.1%
1 株当たり事業純利益 <sup>(2)</sup>	€1.63	+15.6%	+15.6%

(1) 特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レート変動の影響を除いて (CER) 算出 (付録 9 (英語版プレスリリース) で定義)。 (2) 当カンパニーの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益は、GAAP (一般会計原則) に調整を加えた財務指標です (付録 9 で定義)。2020 年度第 1 四半期の連結損益計算書については付録 3 (英語版プレスリリース) に、IFRS 純利益 (為替調整前) から事業純利益への調整については付録 4 (英語版プレスリリース) に記載しています。 (3) 1 株当たり事業利益増加のベースは、IFRS 16 による 2 セントの影響を反映して、5.97 ユーロです (付録 9 (英語版プレスリリース) を参照)。 (4) フリーキャッシュフローは、GAAP (一般会計原則) に調整を加えた財務指標です (付録 9 で定義)。

## 2020 年度第 1 四半期のサノフィ売上高

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高の変動率は為替レート変動の影響を排除して<sup>(5)</sup>算出しています。

2020 年度第 1 四半期におけるカンパニー売上高は、調整前ベースで 6.9% 増の 89 億 7,300 万ユーロでした。米ドルと日本円の強さにより、ブラジル・リアルとアルゼンチン・ペソの下落が部分的に相殺され、為替レートの変動が 0.3 ポイントの好影響を受けました。カンパニー売上高は、CER ベースで 6.6% 増でした。



## グローバルビジネスユニット(GBU)

サノフィは 2020 年 1 月付で、企業戦略を支えるため、スペシャルティケア、ジェネラルメディスン、ワクチンという 3 つのコア GBU に事業編成しました。コンシューマー・ヘルスケア事業部門は、研究開発部門と製造部門を統合した単独の事業部門として設立されているところです。以下の表は、2020 年度第 1 四半期のグローバルビジネスユニット別売上高(コンシューマー・ヘルスケアを含む)と報告地域別売上高をまとめたものです。

GBU 別純売上高 (単位:100 万ユーロ)	2020 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)	米国	前年同期比 (CER)	欧州	前年同期比 (CER)	その他の国	前年同期比 (CER)
<b>スペシャルティケア</b>	<b>2,695</b>	<b>+31.3%</b>	<b>1,639</b>	<b>+36.8%</b>	<b>589</b>	<b>+21.2%</b>	<b>467</b>	<b>+27.2%</b>
デュピクセント®	776	+129.8%	613	+123.7%	90	+140.5%	73	+176.9%
多発性硬化症/ 神経学/その他の I&I	645	+13.2%	446	+17.9%	151	+2.7%	48	+9.3%
希少疾患	794	+11.2%	280	+6.3%	268	+9.9%	246	+18.5%
オンコロジー	186	+28.7%	83	+19.4%	71	+36.5%	32	+37.5%
希少血液疾患	294	+3.6%	217	+1.9%	9	+80.0%	68	+3.2%
<b>ジェネラルメディスン</b>	<b>4,069</b>	<b>-3.8%</b>	<b>742</b>	<b>-10.7%</b>	<b>1,220</b>	<b>+1.4%</b>	<b>2,107</b>	<b>-4.1%</b>
糖尿病	1,282	-1.2%	375	-18.0%	325	+4.8%	582	+9.3%
循環器およびエスタブリッ シュ処方製品合計	2,787	-5.0%	367	-1.7%	895	+0.2%	1,525	-8.4%
<b>ワクチン</b>	<b>909</b>	<b>+3.7%</b>	<b>288</b>	<b>+2.9%</b>	<b>153</b>	<b>+0.7%</b>	<b>468</b>	<b>+5.1%</b>
<b>コンシューマー・ヘルスケア (CHC)</b>	<b>1,300</b>	<b>+4.2%</b>	<b>302</b>	<b>-5.2%</b>	<b>420</b>	<b>+6.1%</b>	<b>578</b>	<b>+8.1%</b>
<b>純売上高合計</b>	<b>8,973</b>	<b>+6.6%</b>	<b>2,971</b>	<b>+13.1%</b>	<b>2,382</b>	<b>+6.5%</b>	<b>3,620</b>	<b>+2.1%</b>

## 地域別売上高

サノフィ売上高 (単位:100 万ユーロ)	2020 年度 第 1 四半期	前年同期比 (CER)
<b>米国</b>	<b>2,971</b>	<b>+13.1%</b>
<b>欧州</b>	<b>2,382</b>	<b>+6.5%</b>
<b>その他の国</b>	<b>3,620</b>	<b>+2.1%</b>
－中国	680	-14.4%
－日本	505	-8.6%
－ブラジル	270	+14.6%
－ロシア	194	+15.7%
<b>サノフィ売上高合計</b>	<b>8,973</b>	<b>+6.6%</b>

第 1 四半期における米国の売上高は、デュピクセント®の好調な業績に牽引され、13.1%増の 29 億 7,100 万ユーロとなりました。COVID-19 における環境に一部関連して Aubagio®の在庫が増加したため、米国の成長に部分的に貢献しました。

第 1 四半期における欧州の売上高は、デュピクセント®、希少疾患、CHC、Aubagio®、オンコロジーの業績に牽引され、6.5%増の 23 億 8,200 万ユーロとなりました。上述のとおり、欧州のいくつかのカテゴリ(特に糖尿病を含むジェネラルメディスンと CHC に含まれる慢性病)での売上高は、COVID-19 に関連する患者在庫の影響を大きく受けました。

第 1 四半期におけるその他の国の売上高は、糖尿病、デュピクセント®、希少疾患、CHC の業績がプラビックス®と Aprovel®の売上高減少によって部分的に相殺され、2.1%増の 36 億 2,000 万ユーロとなりました。第 1 四半期における中国の売上高は、プラビックス®および Aprovel®製品の合計販売数が大幅に増加したにもかかわらず、VBP プログラムによってそれらの製品の売上高が減少したことの影響を受け、14.4%減の 6 億 8,000 万ユーロとなりました。VBP ポートフォリオを除くと、中国の売上高は、第 1 四半期に 14.9%伸長しました。第 1 四半期における日本の売上高は、デュピクセント®の需要が堅調であったにもかかわらず、ワクチン、循環器、エスタブリッシュ処方製品の売上高が減少したことを反映し、8.6%減の 5 億 500 万ユーロとなりました。第 1 四半期におけるブラジルの売上高は、希少疾患とワクチンに牽引され、14.6%増の 2 億 7,000 万ユーロとなりました。



## サノフィについて

サノフィは、健康上の課題に立ち向かう人々を支えます。私たちは、人々の健康にフォーカスしたグローバルなバイオ医薬品企業として、ワクチンで人々を守り、革新的な医薬品で痛みや苦しみを和らげます。希少疾患をもつ少数の人々から、慢性疾患をもつ何百万もの人々まで、寄り添い支え続けます。

サノフィでは、100 カ国において 10 万人以上の社員が、革新的な医科学研究に基づいたヘルスケア・ソリューションの創出に、世界中で取り組んでいます。

サノフィは、「Empowering Life」のスローガンの下、ヘルスジャーニー・パートナーとして人々を支えます。

日本法人であるサノフィ株式会社の詳細は、<http://www.sanofi.co.jp> をご参照ください。

## サノフィ今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功しない可能性があるという事実、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とサノフィが外部成長の機会から利益を得る可能性、関連する取引を完了する能力、および規制当局の認可を得る能力、知的財産権に関連するリスクおよび知的財産に関する現在係争中または将来に生じる訴訟、当該の訴訟の最終結果に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、不安定な経済情勢と市場状況、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、COVID-19 が当社、顧客、サプライヤー、ベンダー、その他の事業パートナー、それらの財務状態、当社の従業員、世界経済全体に及ぼす影響が含まれます。上記に対する COVID-19 の重大な影響は、当社にも悪影響を及ぼす可能性があります。この状況は急速に変化しており、当社が現在認識していない追加的な影響が生じ、以前に特定された他のリスクが悪化するおそれがあります。このようなリスクや不確実性には、2019 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものも含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。